

ライフデザイン学研究第10巻発刊を迎えて ライフデザイン学の今日的意義

著者	杉田 記代子
著者別名	SUGITA Kiyoko
雑誌名	ライフデザイン学研究
巻	10
ページ	3-3
発行年	2014
URL	http://id.nii.ac.jp/1060/00010311/

ライフデザイン学研究第10巻発刊を迎えて

—ライフデザイン学の今日的意義—

健康スポーツ学科 杉 田 記 代 子

「ライフデザイン学研究」は、本号の発刊で第10巻となる。すなわち、2005年（平成17年）4月に東洋大学朝霞キャンパスにライフデザイン学部が開設され、ライフデザイン学教員および学生からのライフデザイン学領域における研究および活動成果を発表するための機関誌としてこの紀要が創刊され2006年3月に第1巻が世に出された。その時から10年の継続した学問の積み重ねにより、この記念すべき第10巻が生まれた。創刊時は、まだまだライフデザイン学という言葉そのものが社会的にも学問的にも十分に認知がされていたとは言えない状況であった。そこから、ライフデザイン学とは何かを模索しながら、そして学部を置くもの一人ひとりが、すべての人々のより良い生活と環境を創造し提案していくために「子どもから高齢者までの生活支援、健康、環境」を科学的に考察する学問領域を縦横に融合させて、社会生活を多方面から支援する研究活動あるいは実践活動を通して、ライフデザイン学構築に向けてきた成果がこの「ライフデザイン学研究」10巻である。巻を重ねるごとに掲載数と内容が充実されてきたが、本号は総説1篇、論文14篇、研究ノート3篇の掲載となりその内容も十分に評価されるものであろう。一方で、現代の日本社会は「少子化」と「高齢化社会」がさらに進み、更にはいろいろな領域で「グローバル化」が推し進められていく状況にあり、従来の生活様式や社会の仕組みだけでは対応は難しく、多様な価値観と選択肢が求められる。このような時代と社会の潮流の中で、一人一人の自らの人生をどう描いて創造していくのかは国民全体にとり極めて重要なことになる。このような時代だからこそ、様々な人々の暮らしをどのように守り、健康寿命延伸を図り、暮らしの環境を整えていくのかを学問的に探求し、その支援策や解決策あるいはその技術を社会に科学的根拠を持って提案していくことが求められる。これこそがまさに「ライフデザイン学」であり、多くの人々が人生を考え、将来方向を描いてゆくとき、「ライフデザイン学研究」に発表された研究成果が果たす役割は大きい。この「ライフデザイン学研究」からライフデザイン学の多彩な研究成果を発信され、ライフデザイン学が発展することで、世のさまざまな人びとの、より豊かで充実した暮らしに寄与できるものと期待する。